

平成 30 年第 1 回 山武市学校のあり方検討委員会 会議録

1 日 時	平成 30 年 3 月 6 日 (火) 午後 3 時 30 分から午後 4 時 30 分
2 場 所	山武市成東文化会館のぎくプラザ 視聴覚室
3 出席委員	15 名
4 欠席委員	5 名
5 会議内容	(1)山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について (2)今後の取り組みについて (3)その他
6 事務局説明者	学校再編推進室長

1 開会 午後 3 時 30 分

2 あいさつ

委員長：第 1 回山武市学校のあり方検討委員会に、ご出席を賜りましてありがとうございます。心からお礼を申し上げるところであります。

私たちの社会は、教育によって支えられている、そう思っているものであります。私たちが今こうして豊かな生活を送れるのも、かつて教育について心配りをいただいた結果として、私どもがここにあるわけであります。今、教育委員会が懸命にお考えいただいているこの問題についても、将来のこの地域、もしくは私どもの社会をどうつくるかということにかかわってくる、大変重いお仕事をなさってくださいている、そう思っております。そのことについて心から感謝を申し上げたいところでもあります。

これまで私どもが答申をいたしました線に沿って、教育委員会は懸命に努力をされて、山武市の学校の編成、再編についてお考えをし、汗を流していただきました。心から感謝を申し上げる次第であります。どうやら入口は突破できたようであります。これからさらにそのことについてご検討をいただけたら大変ありがたく、そう思うものであります。

これまでのご努力に感謝を申し上げて、挨拶とさせていただきます。

3 協議事項

(1)山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について

委員長：それでは会議に入る前に、会議録の公表について確認をいたしたいと存じます。会議録の公表については従来のおりでありますけれども、このことについて事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局：会議録の公表についてご説明いたします。

この学校のあり方に関する問題は市民にとっても関心深いものであり、市として公表していかねばならないものだと考えております。公表の方法として、委員の発言を全て公表するわけではなく、意思形成の過程にあるもの、また協議中、そのような箇所については非公開とし、公表する場合はご発言された委員の名前は伏せさせていただきます。例えば、A委員、B委員というような形で公表をさせていただきます。公表する際は各委員に確認をいただいてから公表させていただきます。

会議終了後、お時間をいただきまして、事務局で会議録を作成後、各委員に確認用の会議録

をお送りいたします。ご確認をいただいて、修正等がある場合は連絡をお願いしたいと思っております。

説明は以上です。

委員長：ただいま、事務局から会議録について説明がありました。このような方法で進めたいと存じます。ご意見ございませんか、よろしいでしょうか。

それでは、議題に入ります。(1) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について、事務局より説明をお願いします。

事務局：議題(1) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について、ご説明させていただきます。次第の1ページをごらんください。

平成24年11月の学校のあり方検討委員会の設置から、これまでの取り組みの経過についてでございます。

上段の取り組み①をごらんください。適正配置基本計画策定までの経緯となります。平成24年11月に山武市学校のあり方検討委員会を設置し、少子高齢化の折、急激な児童生徒数の減少の中、山武市の小中学校の将来を展望した学校のあり方について諮問しました。13回にも及ぶご審議、ご検討をいただき、平成26年3月に答申をいただきました。いただきました答申を踏まえ、その後、基本方針、基本計画の策定に当たっては、教育委員会での協議や、意見を聞く会、保護者説明会を開催し、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画を平成28年9月に教育委員会でも可決、成案とし、この適正配置基本計画に基づき、現在、学校の統合を進めています。

続きまして、下段の取り組み②でございます。山武中学校と山武南中学校、及び松尾小学校と豊岡小学校の統合を具体化するために、学校統合実施計画を策定いたしました。策定に当たっては、区長、PTA、学校長などからなる地域別協議会を設置し、ご検討いただきました。平成29年4月・5月にそれぞれ統合準備委員会を設置し、平成31年4月の統合校の開校に向けて専門部会を設け、協議を開始いたしました。平成29年度・30年度の2カ年の準備期間において、今年度は校名の決定を目標とし、平成29年12月の市議会第4回定例会において学校設置の根拠条例となる学校設置条例一部改正案が原案のとおり可決され、統合校の校名が正式決定となった次第であります。ここまでの流れが1ページに記載してございます。

続きまして、2ページ目と3ページ目をお開きください。

2ページ目でございますが、松尾小・豊岡小の統合準備委員会の会議の開催状況でございます。同じく3ページが山武中・山武南中学校の統合準備委員会の会議の開催状況を報告させていただきました。

続きまして、4ページをごらんください。統合校の校名選定理由と決定までの経過となります。準備委員会における校名の案でございますが、松尾小学校と豊岡小学校の統合校の校名案といたしまして「松尾(まつお)小学校」、また山武中学校と山武南中学校の統合校の校名案といたしまして「山武(さんぶ)中学校」が選定されました。ここに記載のとおり、ともに歴史や地域性、今後地域の学校として長く親しまれる、そういった観点から選定が行われました。

なお、松尾小・豊岡小の統合校の校名案の選定に当たっては、当該小学校区にお住まいの方を対象に公募を行いました。その結果を選定の参考としております。242名から54案の公募があり、その中で松尾小学校とする案が95名と最も多いことも確認されております。また山武中学校と山武南中学校の校名の選定に当たっては、山武南中学校は平成10年4月に山武中学校から分離、新設された中学校でございますが、20年間の歴史を持つ学校であり、その伝統を尊重した上での選定となりました。それぞれの選考の過程におきまして、お互いの学校の児童生徒が仲良く通える学校であること、また、今後それぞれの学校の伝統を引き継ぐことが必要

であるといったことの必要性が確認された次第です。

このページ中段の2番目のところにございますが、準備委員会における校名選定の協議の経過でございます。ここに記載してあるとおり、審議を重ねていただきました。

10月に統合準備委員会における校名案を決定し、教育委員会ではその検討結果の報告を受け、この下の3番のくくりにあるのですが、校名決定への経過でございます。

11月1日の教育委員会第3回臨時会では、小中学校の統廃合についてを議題とし、開校日を平成31年4月1日とする、松尾小学校と豊岡小学校及び山武中学校と山武南中学校の学校統合について可決、決定いたしました。

11月16日の教育委員会第11回定例会では、学校設置条例の一部改正についての協議が整ったことから、12月の市議会定例会に当条例の一部改正について議案を提出し、原案のとおり可決されました。また、通学方法についてもこの準備委員会で協議をいただいたところでございます。

本日お配りしました、A4判1枚のカラー刷りの地図をご確認いただけますでしょうか。松尾小学校と豊岡小学校の統合では、統合することによって遠距離通学となる児童を乗車対象の基本としてスクールバスを導入することとしました。運行ルートにつきましては、オレンジ色の山室方面と、下大蔵、これは緑色のルートなのですが、2つのルートをそれぞれ1台ずつ、合計2台のマイクロバスを運用します。オレンジ色の山室から豊岡小学校の前を通るルートと、緑色の下大蔵の消防機庫、それから金尾を経由した時計回りのルートを導入することで意見がまとまりました。今後、バスの乗降場所など、保護者の意見などもお伺いしながら調整をしてまいりたいと存じます。

また、山武中学校と山武南中学校の統合では、スクールバスの導入も含めて通学方法について検討した結果、自転車通学を基本とするということで意見がまとまりました。今後、通学路の安全対策について、準備委員会においても危険箇所の把握に努め、関係部署と連携しながら対策を行っていくこととしております。

平成30年度以降は、校名の決定を受け、校歌、校章、またバスの運行などに関する準備を行ってまいります。

ここで、一緒にお配りしてある別の資料でございますが、「統合準備委員会だより」というものを添付させていただいております。青色が中学校の統合、オレンジ色が小学校の統合についての統合準備委員会だよりでございます。今年度は第1号の統合準備委員会の開始から、第3号の統合校の校名の決定ということで、発行いたしました。

また、資料の中にある山武市の教育委員会広報誌の「懸け橋」も、統合準備についての記事を掲載してございます。こちらも3部つけさせていただいておりますが、その中の1つ、平成29年12月1日号。成東総合運動公園が第1面となっている「懸け橋」がございまして、こちらをお開きいただけますでしょうか。開いていただいて右のページの左下の部分に、平成29年6月に行われました松尾小学校と豊岡小学校の2年生の交流授業の様子を掲載してございます。

前回この会議を開催した折、開校に向けて、子供たちの交流を充実させてほしいというご意見もいただいたところでございます。中学校では主に部活動の交流に取り組んでおります。小学校は、このほか各学年で交流活動をした結果なども踏まえ、まだ案の段階ではございますが、今後、豊岡小学校の児童が実際に松尾小学校で授業を受け、校舎や人数などに慣れることを目的とした交流も行っていければいいのではないかという意見も出ているところでございます。

議題(1)の説明は、以上となります。

委員長：委員の皆様から、ご質問、ご意見をいただきたいと存じます。

どなたか、ありましたらと思っておりますけれども。

A委員：2点ほど確認させていただきたいのですが、まず1点は、この計画の中で、まだ統合の日程が決まっていないところが何校かあると思うのですけれども、その検討ぐあいはどうなっているのか。

あと、生徒の数なのですが、年度が変わっているのも最新のものがわかっているんじゃないかと思うのですけれども、もし最新の子供の数がわかれば教えてください。増えている、減っているぐらいでもいいです。よろしくお願いします。

委員長：事務局、お願いします。

事務局：まず、1点目の日程が決まっていないものにつきましては、現状ではまだ日程は決まっていないのですが、地域の実情などを踏まえて、学校の統合には丁寧な説明をしながら進めていきたいと思っております。

また、児童生徒の数が計画の策定時より少し変わっているのではないのでしょうかというご指摘をいただいております。毎年5月に児童生徒数の調査がございまして、それをもとに児童生徒数を把握しております。現状つかんでいる数値でございますが、平成31年の統合に関しまして、山武中学校の平成31年度の数が3学年合わせまして327人となります。その後平成32年には321人、平成33年度には336人を見込んでいます。

豊岡小学校と松尾小学校につきましては、平成31年度が239人、平成32年度には225人、平成33年度には204人を見込んでいます。

委員長：よろしいでしょうか。

A委員：はい。

委員長：後で、このことについてご意見をいただいてもよろしいと思しますので、それでは、次の議題についてのご説明をいただきたいと存じます。

事務局：議題の(2)今後の取り組みについてでございます。資料は5ページからとなります。

今後の取り組みとして、平成30年度の統合準備の説明と、もう1点、山武市学校のあり方検討委員会の委員の任期がこの平成30年3月31日となっておりますことから、このあり方検討委員会の今後についての提案の2点となります。

まず、資料5ページからご確認ください。5ページ、6ページにこれまでの学校のあり方検討委員会の会議の開催状況を示させていただきました。平成24年11月5日の設立以降、本日を含めて延べ24回の会議を開催し、ご意見をいただいております。その間、平成26年3月には山武市の小中学校の将来を展望した学校のあり方について答申をいただき、これに基づいて平成28年9月に山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画を成案とし、現在、2つの学校統合について準備委員会を設置し、開校へ向けた準備を行っています。

7ページをお開きいただけますでしょうか。こちらは山武中学校と山武南中学校、松尾小学校と豊岡小学校の平成30年度の統合準備のスケジュールとなります。お互い対等な統合ということで、校歌、校章も検討項目となっております。新たなものをつくるという方向で、校歌は12月、校章は9月の完成に向けて協議を行っています。

制服・トレーニングウェアを新調するに当たっては、複数の業者からのプレゼンテーションによる提案を準備委員から選出された審査員が審査し、6月の見本の展示、その後、児童生徒や保護者の意見を集約し、10月のお披露目を目指しております。

そのほか、引っ越し、通学バスの導入事務、閉校式典など、準備を1年間かけて行ってまいります。

この表の最後、黄色く塗った部分でございますが、新校の学校位置を現・山武南中学校とし、平成33年4月1日の統合校の開校を目指す日向小と山武西小の統合に関する統合実施計画も平成30年度に策定する予定です。

ここからは、山武市学校のあり方検討委員会の今後についての提案となります。

8ページをごらんください。あり方検討委員の皆様は、現在ここに記載されております 20名でございます。任期は平成 30 年 3 月 31 日となります。

続きまして、9ページをごらんください。山武市学校のあり方検討委員会の設置要綱となります。設置要綱をご確認いただきまして、第 1 条にもございますが、本市における児童生徒の減少の中、山武市小中学校の将来を展望したあり方について、幅広い見地からご意見をいただき、方向を見出すため、平成 24 年 11 月に設置されました。

第 2 条、所掌する事務でございますが、第 1 項におきまして、所掌する事項は教育委員会の諮問に応じて答申する諮問機関であることが規定されております。

また、第 2 項でございますが、教育委員会に対し、学校の適正配置に関する課題等に関する事項などについて意見を述べることができると規定されており、平成 26 年 3 月の答申以降も今日まで学校の適正配置に関し、幅広くご意見をいただいております。

ここで第 2 条第 2 項第 1 号をごらんください。

教育委員会に対する意見の具体的な内容でございますが、教育委員会が策定した学校の規模適正化・適正配置に関する計画の推進に関する課題等に関する事項と規定されております。現在、統合準備委員会において地域で具体的にご意見をいただきながら検討を行っており、あり方検討委員会から学校統合の全体的なご意見をお伺いする機会というのが当面見込まれていない状況であります。

また、その下の第 2 号のところでございますが、そのほか教育委員会が必要と認める事項に関しましては、統合年度が定まっていない学校統合の検討を教育委員会が行う場合には、改めて学校のあり方検討委員会のご意見をお伺いすることも想定されます。

そのようなことから、任期である平成 30 年 3 月 31 日をもって山武市の学校のあり方検討委員会を当面の間、休止することについて提案させていただくものでございます。

議題（2）に関しましては、事務局からは以上となります。よろしく願いいたします。

委員長：それでは、今後の取り組みについて、事務局からただいまご説明がございました。委員の皆様からご意見、ご質問等をいただきたいと思います。

それでは、私からご指名をさせていただいて、恐縮でありますけれども、（1）と（2）の問題についてでございます。それ意外にも何かお気づきのことがありましたら、ご意見を頂戴できればよろしいかと思っております。まず、副委員長、お願いできますでしょうか。

副委員長：皆様、大変長期にわたりこの委員会を開催していただいて、また、広く私も意見を述べさせていただいて、ここまで来られたことはよかったですと思っております。

私からは、現在、当面の問題として出ている地元の方たちとの調整とかそういったところ、おおむね順調に進んできたとは思いますが、事務局の方から見て、今、課題としているものがどういうところであって、教育委員会のほうでも、このあり方検討委員会を休会しても大丈夫だろうという、そういったご判断に至っていると思うので、その辺についてもう少し事情をお伺いしておけばというふうに思っております。その辺、もし情報提供をいただければありがたいと思っております。

委員長：事務局、お願いします。

事務局：今、2つの統合準備を行っております。その前段では、地域別の協議会で大方この統合に向けまして、2年間でどのようなスケジュールで、どういう項目を検討していこうかというところで、そういう協議があった中で実施計画をつくって、今の統合準備が行われているところでございます。

対等の統合ということで、全てが検討の項目になってまいります。そういったことから、丁

寧に地域の意見というものを吸い上げながら、慎重に行わなければならないというところはとも痛感しているところでございます。

ただ、この計画に向けて、2年間でつくり上げていくということに関しては、この準備委員会の中、また、地域のほうでもご理解もいただいた中で今の2つの統合でございますので、そういったところに対する協力というものも感じながら行っているところでございます。

また、今度は33年4月に新たな実施計画をつくっていくこととなりますが、こちらも広く地域の意見をまず前段階、実施計画をつくるところできちんと把握しながら進めていきたいと考えております。

副委員長：規模適正化とか適正配置とか、思いのほか人口減少が進んできているところがあると思うのですが、これは長期的に見ると、さらに規模の適正化とか適正配置とかという懸念はないのでしょうか。

事務局：先ほど、今後の生徒数の見込みなどというご質問もあったかと思えます。おおむね6年後の予想は、実数として出生数を把握した中で進めています。

小学校につきましては、複式学級が見込まれる学校の統合ということをまず1つ掲げた中で行っているところでございます。毎年注視しておりますが、前期計画の中での統合校以外の後期計画に今、位置づけられている学校については、まだその現状は見受けられておりませんが、今後も注視していきたいと思っております。

副委員長：ここに参加させていただいて、繰り返し述べさせていただいてきたのですが、このあり方のことについては、各地元の方の思いとか、いろいろなものの調整だと思うのですが、人口減少のトレンドといいますか、そういったものはもうより一層加速化して行って、高齢化して行って、過疎化していくわけですから、その辺についてもぜひご議論くださいということを繰り返し行政のほうにお願いをしてくれているのですが、これが本当に山武の子供たちがよりよい未来とか教育を受けていくために、プラスになる方向で発想を転換していかなければならないのですが、いろいろなものが先行し過ぎて、将来10年、20年先を見据えた子供たちのために今やれることというものを少しでも盛り込んでおくことが大事で、ほかの地域に、統合されるから、教育の環境を変えようかといって流出を招くことがないように、行政のほうにお願いしておきたいなと思っております。

委員長：今、副委員長からお話のありました、将来に向かって子供たちの数がどうなのかという問題というのは、とても大きな政治的な課題であると私も思っております。これは教育委員会を越えて、山武市が将来の山武市を持続させるためにどう考えるかという問題にもかかわってくる問題だろうと思えます。

このぐらいで下げ止まるぐらいの子供の生まれる数については、これがめいっぱい、これより下がることがないようなことについてどう考えるかということが、多分大きな政治課題になるのだろうと思えます。これ以上減らさないということは、多分これは行政だけではなくて、この地域に住んでいる人たちそれぞれが、もうこれ以上減らさないことにしようよ、つまり、子供をどうこの地域の中で確保していくかということについて、きちっとしたコンセンサスをしなければならない時に差し迫っているというのでしょうか。

つまり、子供は社会の宝であるから、我々が全てのことについて責任を持つというぐらいの覚悟をして、地域の持続性を担保するために、ある一定の子供がこの中で生まれてくるというような社会環境を、さまざまな政策を動員して行っていかなければならない、そういう時代に立ち至っているのではないかなという気はいたします。

これは教育委員会にお願いするというよりも、山武市全体、山武市民お一人お一人がそのことに深く立ち返って考えていかなければならない課題かなと思っております。

今までのことも含めて、何か将来についてでも結構です。何かご意見をご発言いただけたらありがたいと思います。

B委員：当初から関わらせていただきまして、本当にありがとうございました。

私もこれが始まる前からPTAの役員もさせていただいていまして、少子化、数がどんどん少なくなってくると。何とか対策をお願いしますという話もさせていただいたこともあったのですが、今、おっしゃられたように、後期計画が38年度以降となっていて、そうすると、そこに乗っても、早くても40年、41年ぐらいの統合になってくるのではないかと、今から10年先になってしまうのですね。

その全体の人口を見ても、そんなに現状が悪化するとも、改善するというものではないか。減っていく状況がそのまま続いていくのではないかとも思うのですが、そうすると、あと10年先、今、統合した、来年から最初の学校ができますけれども、10年後、15年後にまた同じような話が出てくるのではないかという危機感が今ものすごくありまして、とりあえず今回は地域別の統合になっていますけれども、本当に先を考えたときに、地域、地区とかを本当に取り払った上での、山武市としてどうしたらいいのかというのをもう一回また考えるときが来るのではないかということを危惧しています。

いろいろ関わらせていただいて、そんなに統合というものは簡単ではないんだということもよくわかりましたので、これからもご協力できる部分をご協力させていただきながら、私個人としては大した力はないかもしれませんが、山武市の将来の発展に少しでも何か役に立つことがあればということを日々考えていければなと思っております。

委員長：それでは、C委員、何かご意見がございましたら、いただけたらと思います。ご質問でも結構です。

C委員：先ほど発言があったとおり、我々子育て世代としては、ちょっと教育を飛び越えてしまうのですが、やはり医療、病院とか教育の充実が本当に、ほかと比べて充実した自治体になってもらいたいと思っております。

そのことによって、自分たちの同級生もたくさん前はいたんですけど、やはり仕事の関係とかで、この地域に残念ながら住んでおりません。やはりこの地域に住んでもらうためにも、今が本当に最後のチャンスと申しますか、自治体全体として考えてもらわないと、教育委員会だけではだめだと思うのです。他の自治体から帰ってきたときや新しく小学校に入る場合は入学祝いをいただけるとか、そういった対策をしないと、ただ待っているだけでは誰も帰ってこないと思うのですね。

今は少子化で、一夫婦あたりの出生数も減っているということですので、本当にこの地域の自然とか環境のよさをどんどんアピールして、新しい人に住んでもらう形にしないと、将来本当に心配と申しますか。たまたま自分は自営業ですので、この地域に住んでおまして、いいところだからどんどん帰ってきなと言いますが、やっぱり仕事ですよね。働く場所、これからどんどん企業を誘致してもらいまして、そういったところまで話をしないと、結局何も解決しないのかなと、そのように考えております。

委員長：それでは、大変貴重なご意見をいただきました。新しい人にどう住んでもらえるかということは大きなテーマであることは確かだと思います。いいところなのですが、それが伝え切れていないというところがありますね。

それでは、D委員からご意見をいただけたら大変ありがたいと思います。

D委員：確かに今、皆さんがおっしゃっているとおり、人口の減少に伴う生徒数減ということに関しては、これから先、単に前までの地域というものにとらわれていては、将来的には厳しい状況も考えられるのかなというのは、今お話を聞きながら感じていたところです。

それぞれ新しい人という話もありますが、やはり地元で暮らしていた人たちの思いというものもそれぞれあるところもありますので、そこら辺を調整していくのは、やはり難しいところもあるのかなという気はしております。

統合に向けていい形で生徒、保護者がともに統合した後も頑張っていけるような学校を目指していきたいなと思っております。

委員長：ありがとうございます。ご苦勞なさりながら、そのようなことについてご配慮いただいて、大変ありがたいと思っております。

それでは、E委員、何かございましたら、ご意見をいただきたいと思います。

E委員：私も過去三、四年関わらせていただいておりますけれども、この統合の問題があつて、非常に地域住民がもう一度地域社会を見つめ直すよい機会であつたのではないかと、そういった面もありました。

学校に関する統合は、反対、賛成派それぞれ意見はあります。地域社会において、地区住民が一体どういうふうにならぬかという、長期的な視野に立って、考えるいい機会を、問題提起をしていただいて、今までは統合といたら、ただ単に統合でピンときませんでしたけれども、実際学校がなくなってしまうといったときに、果たして地区はこのままでいいのかどうなのかということを提起したということは非常に大きかったと思います。

今後、新しい学校が2つ統合していくわけでございますけれども、特にこの学校の2つの統合がうまくいくか、いかないかによって、今後のスケジュールというのが非常に変わってくると思います。ですので、この2つの学校の成功というのが今後の鍵を握っていくのではないかと思います。

それから、統合が本当にいいのかどうなのかということも改めてまた考えるべきことなのかなと思つました。ただ単に統合していくのが本当にいいのかどうなのかも、同時に考えるべき問題なのかなと。小は小なりで、小のいいところを活かしていくのも、また地域社会なのかなと思つます。本当に落ち着いて、よく考えて、住民の理解を得て、それから、本当に子供たちによい機会を与えるという方策が望ましいのではないかと感じました。

委員長：地域がどう考えるかという問題について言えば、この問題はなかなか難しい問題を含んでいることは確かだという感じはします。しかし、将来の子供たちにどう私たちが今ここで備えるかということについても、なかなか議論をしていかなければならないという難しい判断もある、そう思っております。

それでは、F委員からご意見をいただいて。

F委員：統合に向けて話をしていると、最後の卒業生はできないことがとても増えました。統合するから、児童も減るから、つぎの1年生が少ないから部活がなくなる、マーチングがなくなる、先生が減る。統合するからここは減らす。統合していく学年の子たちは新しい友達が増える。統合するから、中学校も統合なのです。卒業して、みんな同じ中学校に行く予定だったのが、統合後の学校のほうが近いからそちらに行くという子もいるのです。なくなっていくって、こういうことなのだなと実感したりします。

小なりにという意見があつたのですが、本当に先生と子供の距離が近いので、第二のお母さんだったりお父さんだったり、近所のおじさんの役割をしてくれたり本当に先生たちには頭が下がります。通学の途中にもおばあちゃんが立っていてくれたり、先生が旗を持ってくれたり、不登校の子がいても、小さいと仲間はずれなんかできないのです。来てくれたら、やったと喜びます。大きいと1人の子を忘れず。ちょっと来なくても、休みだったのだと思つすけど、小さいと1人の持っている力がすごく大きいので、いないととても困るのです。リレーができないとか、2対2にならないとか。簡単なことなのですが、閉校するってすごくさみ

しいのです。どうしても小さかった学校のほうが吸収される形になります。新しい学校にします、PTAの役員を決めます、負担は小さい学校のほうがすごく多いです。3人決めましょうといったときに、向こうは大きい中の2人だけど、こっちは、あなた？ 私？ というレベルの1人なのです。小さい学校の肩身が狭くならないようにというのももちろんあります。

小さい学校だと結束も強いのですごくいいと思うのです。閉校することはしようがないことだと思いますし、地域のこととか住むこととか、育てていくことというのは毎日のことなので私たちも必死で、来年のこと、再来年のことまでは考えられても、10年後までは考えられなかったりするのも実際です。

子供が大きくなって、戻っておいでと言える環境であってほしい、家が建てられるよという環境であってほしいと思います。街灯の数とか歩道の数、自転車で通学するにはとても危ない道が多いです。バスを運行しても、やはり自家用車で通うと思うのです。ちょっと遅くなったから送りましょうといったときに、信号の数がすごく少ないです。車が事故を起こし、救急車が来たり、その中を自転車で走ります。保護者が送ってくれた人のほうがいいですよ。うらやましいなとなります。働く先が遠ければ保護者は送れなかったりもします。いろんなことが困っていくのではないかなと。私は地方の出身なので、こっちは都会だねって思っていたのですけど。東京が近くていいと思うけど、近ければ通うという選択肢より、出るのも出やすいのです。だから戻ってこなくなるのです。知らなかったのです。ここに束縛されなくて済む分、さみしくなる土地なのかなと思います。

委員長：ありがとうございます。とても貴重なご意見だったと理解をいたします。

多分、統合した後に細かな心配りが必要になってくる。学校運営や、さまざまな地域の中でもそういうことが必要になってくるんだろうなということが目の当たりに浮かぶようなご意見でありました。ありがとうございます。

A委員：今、教育委員会の広報紙を見ていたのですけれども、2月1日号の真ん中のページに平成29年度の地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣の表彰を受けられたということで記事が載っています。こちらの活動、非常に地域の小学校との連携という意味で非常にいい活動なのではないかなと思ったので、こういった活動をほかの学校にも広げていっていただくようなことをご検討いただけたらと思います。

あと、文科省のほうでコミュニティスクールという考え方で、多少進めているところもあると思うのですけれども、今度、学校が大きくなると、当然かかわってくる地域の数も増えますので、その辺もあわせてご検討いただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

教育長：今、2点ほどお話を伺いましたが、まず1つ目の放課後子ども教室、これについては、今回、緑海小学校さんで長年にわたって活動されたところが評価されて、文部科学大臣の表彰を受けるという、大変名誉ある賞をいただきました。

ここにも書いてありますように、平成18年から12年間という長い間続いているのですが、これも地域の方たちのボランティアによって支えられています。地域の中でリードしてくれるコーディネーターさんがいて、その中で学校の子供たちに対してさまざまな、この子ども教室というのは勉強だけじゃなくて、地域の子供たちが、お茶だとか昔の遊びとか、さまざまなことについて体験する機会を与えてくれています。この活動を、やはり緑海だけではなくて、山武市内の多くの学校に広げたいと思い、この活動を奨励はしているのですが、現在、市内では3校、日向小学校と山武西小学校がこの子ども教室を展開しています。これも、地域の方たちの中からボランティアで子供たちにそういうものを教えてあげようという動きが出てくる、活発な地域活動があってできてきていることなのですね。それが、子供の数も保護者も少なくなっていく中で、地域活動と学校との結びつきが十分にとれていけないという現状がございます。

そういった面からも、今後ある程度規模が整ってくれば、そういった活動もやりやすくなるのかなというふうには考えているところです。教育委員会としてはできるだけ全部の学校にこういう活動をさせてもらえればと考えています。

そんな中で、今、教育支援センターという活動を考えております。これは地域の方たちとかりタイアした高齢者の方たち、いろいろなスキルを持った方たちが、今の学校教育の中では十分満足できないさまざまな生きる力という意味での、キャリア教育とかいろんな面でお手伝いをしていただけるような、そういったものを考えておまして、そういうシステムがきちんとできてくると、地域のボランティアのある、ないにかかわらず、市としてそういう展開ができていくんじゃないかなというような形で進めさせていただいています。

現状ではボランティアに頼っているという部分で難しいところがあるということをご理解いただければと思いますが、今後広めていきたいというふうに考えています。

それからもう1点、コミュニティスクールなのですが、地域学校運営協議会というものをつくるものなのですが、現在、松尾小と豊岡小の統合については、コミュニティスクール化を検討しております。まだ具体的にはなっていませんが、今後、統合にあたっては学区が広がり、対象地域が広がるということから、今まで以上に地域とのかかわり合いを深く保つためには、何らかの形をとらなきゃいけない。そんな中でコミュニティスクール化というのは非常に大きな力を発揮してくれるのではないかと考えておりますので、できるだけ今度の統合にあわせてできるように検討を進めているところでございます。

委員長：よろしいでしょうか。ありがとうございます。

教育長職務代理者：この答申を受けるころからずっとかかわってきました。委員長をはじめ、学校のあり方検討委員会の委員の皆さんには本当にお世話になりました。

私もこういう規模適正化・適正配置の問題を論議するときに、ほかの町村の動きも、新聞を見たり、ほかの教育委員の話の聞いたりします。山武市は早めに取りかかって一番よかったなと思ったのは、実際に小学校の登校児童がいなくなった、もうどうしようもないところからスタートした市町村の話も聞きます。児童がいなくなってからどうしようかというよりも、その前に検討してきた山武市は、いいのかなと思っております。

実際にある町の人が、教育委員が話に来たときに、来年から小学校は登校児童がないのだよと。それから、さっきの話にありましたが、この環境ではこの町にはいられないという保護者が出てきてしまった。児童数が少なくて、先生とのかかわり合いは非常によかったかもしれないけれども、先生方が少ない。もう学校で50人を切ってしまった児童数になってきて、このままではうちの子供たちを入れるよりも隣の市に行ったほうが教育環境がいいと言われて、それで、1年以内に統合をやらざるを得ないという状況の中で教育委員会が踏み切ったという話も聞きました。

そういうことからすると、先ほどからお話があったように、先を見据えてどうしようかという、その検討がこの学校のあり方検討委員会の中でお話しされたということで、私は非常にうれしく思います。今後の展開もまた時期を見て、次の人数を見ながらどうしようかという話をぜひいただければなと思っています。

本当にありがとうございました。

委員長：それでは、3のその他になります。事務局、何かございますか。

事務局：その他の議題は用意してございません。

事務局からとなりますが、児童・生徒の教育を第一に考え、答申をいただきました。それを基本にいたしまして、今、保護者や地域の意見を伺いながら、学校の統合の事業を行っているところでございます。また、来年4月の開校に向けまして、微力ではございますが、尽くして

まいりたいと存じます。これまでありがとうございました。

委員長：それでは、これで会議は終了させていただきます。委員の皆様にはご協力をいただきありがとうございます。御礼申し上げます。

事務局：委員長、どうもありがとうございました。

ここで、学校のあり方検討委員会設置当初から委員長としてご協力を賜りました委員長に、ご挨拶ということでお願いできればと思いますが、よろしく願いいたします。

委員長：このお話を最初にいただいたときに、教育委員会は大変な仕事をするのだなというふうに思いました。厄介なことは、今の時代に、教育がどういうことについて心配りをしなければならないかということが、ターゲットとなる将来の社会が見えていないというのでしょうか、見えないというのでしょうか、私たちが想像している社会ではない社会が、この日本社会の中できてくる、今の子供たちが大人になってさまざまな経済活動をするときに、そこが見えないというところに今の大変難しい問題があるのだらうと思います。

多分、今の子供たちが大人になったとき、日本の人口は8,000万ぐらいになってしまうでしょう。人口が大幅に減少した日本社会になるはずです。外国の人たちが増えた社会がこの日本の中にでき上がるということだけは確かだらうと思います。

そんな困難なときに今の子供たちが人生を全うしなければならない、そこにどう教育が備えるかということについて思いをめぐらすと、大変だな、私たちはいいときに生きたものだというふうに思うわけでありませう。

人の幸せがどんなものかということについて、私たちは、きのうよりは今日、今日よりは明日、絶対よくなるという時代に生きてきたわけでありませう。これからはなかなかそういう時代ではないのだらうな、人の幸せというものを大きくくりにつくるといよりは、むしろ一人一人がどう人生を全うするかというようなことについて考えをめぐらさなければならないような社会、その中で人々がどう教育をして、社会をつくっていくかというようなことについて考えるとすれば、これは頭が痛くなるようなことだらうと思います。

でも、何かをしなければならないという事実だけは動かしがたいこととして存在するわけでありませう。どうか、大変な社会に当たったときに、たくましく育てられるような人が地域の中にもいる、日本の社会の中にもいる、そういう社会を目指していかなければなりません。

若い人たちにもお願いしておきたいと思ひます。将来に備えて、教育というのはとても大切なものだけということだけは、どうか日々お考えいただいて、それがきつとこの地域の社会をすばらしい社会にしていくことに貢献するはずだという信念だけは忘れないで活動いただければありがたいと思ひます。

長い時間私どもにご協力をいただきまして、このことが無事に終わることを大変うれしく思ひます。教育委員会の皆さん、それから事務局の皆さんに心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

事務局：ありがとうございました。

続いて、嘉瀬教育長よりご挨拶を申し上げます。

教育長：皆様、本日は学校のあり方検討委員会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

この学校のあり方検討委員会ですが、委員の皆様には平成24年11月の設置から平成26年3月の答申を得て、基本方針、そして基本計画の策定に大変たくさんのご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。平成28年9月に規模適正化・適正配置計画というものが成案になった後、31年度の統合を予定しています2つの地区について、それぞれ統合準備委員会というものを組織して、具体的な実施計画を作成し、進めてきております。

今日、いろいろ報告がありましたように、今までのところ、計画は順調に進んでいるところでございます。このようなことから、今回任期を迎える、今年度末でこの学校のあり方検討委員会を一旦休止をさせていただくことになりましたが、さまざまな状況の変化の中で、また必要ときには新たに設置をして、皆様方のご意見を聞く場合も出てくると思います。

この少子化が進む中で、先ほどお話もありましたが、社会の変化がとても大きくて、子供たちの生きる力をつけるという大きな目的のために、この問題は避けて通ることができないという状況だと思います。今まで同様、地域の意見を聞きながら、皆様のご理解が得られるようにして今後も進めてまいりたいと思いますので、皆様方にはよろしくお願ひしたいと思います。

最後に、長年にわたりましてご苦勞いただいた委員長には、改めてお礼を申し上げたいと思います。また、それとともにご協力をいただきました委員の皆様方に感謝を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

事務局：以上をもちまして、山武市学校のあり方検討委員会を閉会といたします。

どうもありがとうございました。

4 閉会 午後4時30分